

令和8年度第1回山形市男女共同参画センター運営委員会会議録

日 時 令和8年5月29日（金） 14時00分～15時30分

場 所 山形市男女共同参画センター5階 視聴覚室

I 出席者

【委員】本島優子委員長、我妻靖浩委員、加藤法子委員、栗原明日香委員、佐藤知恵委員、澤村千明委員、鈴木翔委員、関原あずみ委員

【事務局】奥山企画調整部長、遠藤男女共同参画センター所長、風間副所長、大石係長
後藤主査、増川主査、佐藤運営事務員

II 傍聴者 0名

III 会議

- 1 開会 大石係長
- 2 委嘱状交付 奥山部長より
- 3 企画調整部長あいさつ 奥山部長
- 4 委員自己紹介・職員紹介 各委員より・大石係長より
- 5 正・副委員長の選任 委員長：本島優子委員、副委員長：五十嵐健裕委員を選出
- 6 正・副委員長あいさつ 本島優子委員長よりあいさつ
- 7 議事
 - (1) 報告
 - ①令和7年度事業報告について 事務局
 - ②公共施設予約システムの運用開始について 事務局
 - (2) 協議
令和8年度事業計画について 事務局
- 8 その他
- 9 閉会 大石係長

【審議経過】

7 議事

(1) 報告

- ①令和7年度の事業報告について
事務局から資料1に基づき説明があった。

(委 員) 高校に勤めているので、相談業務について10代の子がどのぐらいいるのか気になった。10代・不明も含めて2人というだが、10代で男女共同参画センターにご相談に来る場合は、どのような内容で相談に来るのか伺いたい。

(事務局) 10代の方は、この3年間では初めてである。相談の内容については、12ページに記載の通りですが、詳細については、報告書から、心の健康についての相談と推測される。

(委 員) 女性リーダー育成事業と高校生向け事業「Girl up!」については、自分自身が、キャリア支援や転職支援の仕事をしているため、内容について興味を持って見ていた。若手の女性の方や女子高校生向けということだが、受講後、皆さんがどんな感想をお持ちだったか伺いたい。

(事務局) リーダー育成事業については、前向きにリーダーとして管理職を目指していこうという気持ちになった、会社に戻ってどれぐらい変わるのかなという気持ちになったというお話をいただいた。この後の協議で令和8年度事業計画においてご提案させていただくが、フォローアップの講座ということで、どういった行動変容があったかを伺おうと考えている。その内容については、この運営委員会でご報告していきたい。

「Girl up!」に参加の高校生については、これまでなかなかお付き合いをしたことがない、先生でもない、先輩でもない、いわゆる斜めの関係が構築できて大変よかったというご意見をいただいた。

(委員) 小中学生向けの学習資料について、小学校1年生、4年生、中学校1年生に配布されているが、この学年で配布している意図が何か伺いたい。また、同じ資料を平成14年から続けているということなので、同じ資料を受け取っている人がたくさんいるのではないかな。

(事務局) 令和5年度に改定し、対象の配布の学年も変えている。改定前は小学生の2・4・6年生に配布だった。また、それぞれの学年で内容も異なっている。

その学年への配布の意図については、小学校・中学校とも1年生は新たに学校に入る学年であることから配布している。作成内容は、小学校1年生については仲良くできる学校生活というテーマ、小学校4年生については、違いを尊重できる学校生活というテーマ、中学校1年生については、男女相互理解の協力、ジェンダーと多様性というテーマで作成している。

(委員) 様々な講座やイベントの報告と人数の報告がされているが、私もぜひ参加したかったと思える魅力的なものがたくさんある。講座によっては募集人数の制限もあったと思うが、募集人数に対して、埋まった講座がどのくらいあったのか伺いたい。

(事務局) イクメン・イクジイ講座については、すべて定員より多くの申し込みがあり抽選となった。

エンパワーメント講座の4番については、特に定員を設けず、会場に入る程度を考えていたが、43名ということで当初の想定の名30名を超えるお申し込みをいただいた。他のエンパワーメント講座についても、定員を超えた申し込みをいただいた。

健康講座についても、お薬の講座が定員に満たなかったが、他は定員を超える申し込みをいただいた。

男女共同参画講座の落語については、定員を設けずに当日参加も可能とし、この人数となった。

防災講座と育児サークルとの共催の研修会については、残念ながら定員を超える申し込みはなかった。

②公共施設予約システムの運用開始について

事務局から資料2に基づき説明があった。

(質疑無し)

(2) 協議

令和8年度事業計画案について

事務局から資料3に基づき説明があった。

(委員) 男女共同参画に関する一行詩の終了の理由を伺いたい。

(事務局) 大学生からの聞き取り等により、若年層の方に関しては、ある程度男女共同参画意識が高まっていると判断させていただいた。また、最近はAIで作成するなど想定されるため、すべてこちらで把握できないところもある。このようなことから終了という判断となった。

(委員) 令和7年度の事業実績中の女性の健康相談で、相談をしている人のうち30代が80%となっているが、この昨年度のデータに基づいて、このぐらいの年代をターゲットとした健康に関する企画をするというようなことは現段階で考えているのか。

(事務局) この健康相談は、相談員からの報告によりますと、ほとんどが授乳に関する悩みである。授乳に関する内容の講座を当センターで行うことはなかなか難しいと考えているが、山形市保健所の母子保健課に、こうした意見があった旨報告いただく。

(事務局) 山形市では、昨年度新しい健康づくり計画を策定したところで、その中で女性の生涯にわたっての健康づくりという形で項目を出させていただきながら、女性の健康、健康づくりということで講座を実施している。

女性の健康、健康づくりについては、母子保健課を中心としながら、健康増進課でも事前の癌検診の受診率の向上も目指しているところである。先ほど事務局が申し上げた通り、県、保健所等も一緒に連携しながら、市民の方にお伝えしていく。

(委員) 新規の山形市の女性人材育成事業について、大掛かりな事業という感想を持っている。例えば、希望の会社が複数あったら志望動機等で選ばれるのか、また、具体的にサポートをしていくのは、山形市の方なのか、それとも女性活躍が推進されている企業の方等をお願いするのか、具体的な内容を伺いたい。

(事務局) こちらの事業については、専門的な知識が必要になるため、専門的な知識を持つ業者の方に業務委託をし、1年間サポートさせていただく予定である。対象の会社については、公募であるため1社以上の場合、何らかの形で選考させていただく流れである。ただし、残念ながら今のところ募集がない状況のため、公募期間を延長するなど、この事業が成功するようどう進めるか検討している。

(委員) 企業向けの出前講座が大変好評だということだが、今年度は、さらに募集を増やすというような予定はあるか。

(事務局) 企業向けの出前講座については、昨年度は12の会社・団体様から申し込みをいただいて実施した。予算の都合もあるが、10社にとどまらず15社など希望があれば受け入れたいと考えている。

(委員) 自主企画講座は、企画の数を増やす、募集定員を増やす等の予定はあるか。

(事務局) 自主企画講座については、委員の皆様方から、こういった講座が良いのではないかというものがあったら、ぜひご提案いただいて実施したいと考えている。

(委員) 自主企画講座の内容について、昨年度も今年度も「アンコンシャスバイアス」をテーマとした講座等を実施しないようだが、「アンコンシャスバイアス」については、単発というより継続的な取り組みが必要な内容と思っているので、ぜひ検討いただきたい。

(委員) アンコンシャスという観点で、例えば「女性に対する暴力をなくす運動」という表現がされているが、暴力は必ずしも男性から女性に向けられたものだけでないし、DVという被害者が女性、加害者が男性というイメージがあるが、その逆の場合もありうる。表現の問題ではあるが、こういったところから少しずつ意識していく必要があると感じている。

(事務局) 令和6年度にアンコンシャスバイアス関連の講座を開催しており、社会保険労務士の講座を開催した。委員からご質問があったように、アンコンシャスバイアスについては継続的な取り組みが必要だと感じているため、何らかの形で検討していきたいと思う。

女性に対する暴力をなくすという表現は、11月12から25日を期間とする国が掲げている女性に対する暴力をなくす運動というものをそのまま掲載している。しかしながら、男性に対する暴力ということも考えられることなので、そちらの方も啓発等、続けていきたいと思っている。